実務報告

文部科学省委託事業
「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」
職域プロジェクト（クリエーション）成果報告（平成23年度～平成27年度）

The Accomplishment Report on "Strategic Promotion of Development of Core Specialists in Growth Fields"

Project Commissioned by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

Bunka Fashion Graduate University　　文化ファッション大学院大学
Shoji Babazono　　准教授　馬場園　晶司

要旨：文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」は、成長が見込めるファッション分野において、グローバル化に対応し、さらに先の時代を切り拓くことのできる人材を養成するためのモデルカリキュラム基準等の構築を目的とする事業である。本稿は、平成23年度～平成27年度に実施した本事業職域プロジェクト（クリエーション）における内容と実践的な取り組みを中心に報告するものである。

1. 緒言

今、ファッション業界は大きな構造改革の時期を迎えている。日本のファッション産業は、中国を中心としたアジア諸国の急速な追い上げにより様々な影響を受け、今後の対応が迫られている。しかしそのような状況下にあっても、日本製品のデザイン力や技術、品質は今なお世界でもトップレベルである。今後も成長が大いに見込めるファッション分野において急務となっているグローバルな視点に立った人材育成を先導するためには、多様化が進む時代や急激な環境の変化にも即応できる人材を養成する学習システムの基盤を整備し、検証することが必要であると考える。

提出年月日：2017年2月13日
受理年月日：2017年3月　9日

2. 平成23年度事業

「ファッション分野の中核的専門人材養成のための新学習システムの構築推進プロジェクト」

2-1：事業の目的

平成23年度プロジェクトは、文化服装学院が総括を行い、ファッション分野における時代に即応したグローバルな専門人材の養成を目的とし、その具体的な教育プログラムを調査、研究、協議しながらモデルカリキュラムの基準等を構築していく。

ファッション業界は素材メーカー、産地、卸、小売など、広きに細分化しているため、ファッション関係諸団体、産業界、教育機関からの連携・協力を図ることにより、より実践的で職業人として効果的な学習システムの構築を目指す。

2-2：参加・協力機関

教育機関

文化服装学院（総括）、文化ファッション大学院大学、杉野服飾大学、名古屋学芸大学、北海道文化服装専門学校

産業団体・企業等

一般社団法人 日本ファッション・ウィーク推進機構、（株）LEWS 纏、（株）あぶち

2-3：事業内容

1） 服飾系教育機関におけるクリエーター教育の現状と課題の把握

日本の服飾系教育機関におけるクリエーター教育において、再検討すべきいくつかの課題が指摘される中、特に多くの事業参加・協力機関の委員が指摘したのは、「テキスタイルの知識不足」である。かつては数多くあったテキスタイル産地の縮小化もあり、今の学生は、世界が認める日本のテキスタイルの品質や技術力を現場で学ぶ経験が少ないのが現状である。クリエイティブ分野（ファッション）における実践的な職業専門人材を育成するためには、学校でのテキスタイル教育だけでは限界があり、可能な限り現場を実体験させ教育に反映させることが必要であるといえる。

今後、インターンシップの有効性、産業界や産地とどのように取り組んでいけるかを検討し、それをカリキュラムにどう組み込むかが課題といえる。

2） 産地視察

平成 24 年 2 月 20 日（月）～21 日（火）、質の高いモデルカリキュラムの作成、コラボレーション先の検討、産地の現状把握と理解のため、産地視察を行った。

視察先は、愛知県尾州産地の日本毛織株式会社一宮工場と中伝毛織株式会社の 2 社。

視察の成果として、尾州は日本有数の毛織物工場の産地であり、東京からも比較的近いため、モデルカリキュラム基準作成における産地候補として適していると認識ができた。

図 1 中伝毛織株式会社見学

3） モデルカリキュラムの提案

① 概要

素材への理解をより深めることが、今後の日本におけるクリエーション力の強化に繋がると考え、複数の学校から参加希望学生を募り、国内の産地とのコラボレーションによる作品制作や素材開発の機会を創出する。

② 成果目標

・素材、産地への知識を深める。
・クリエーション力を高める。
・行動力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高める。
・グローバルマインドを身につける。

③ 授業形態

テキスタイル研修（産地・工場見学）をとおして、素材開発、素材加工、オリジナル作品制作までを一貫して行い、事業成果を披露する。また、専門家による特別講義を行い、産地やテキスタイルについての知識を深め、クリエーションに反映させる。

2-4：成果の活用・次年度への課題

今年度は、ファッション分野における時代に即応したグローバルな専門人材の養成を目的として、主にモデルカリキュラムのシステム作りを検討した。

今後は、今回産地視察を行った尾州産地の企業にとって利益がうまれるような内容を協議したうえで、モデルカリキュラムの実証を目指す。

3. 平成24年度事業

「テキスタイルおよびクリエイティブ分野におけるグローバルな人材育成プロジェクト」

3-1：事業の目的

平成24年度プロジェクトは、昨年度提案されたモデルカリキュラムを実践に移すため、名古屋学芸大学が総括を行い、「尾州産地のウール」をテーマに実施。テキスタイルメーカーと学生がコラボレートしながら、国際競争力のあるウール素材を研究することで、グローバルな専門人材育成を目指す。また、本事業が本格的に動き出すことにより、これまで少なかった学校間の交流や共同事業が活性化すると同時に、産業界とのパイプがより太くなり、教育と産業の両面で活力を与えることが期待できると考える。

3-2：参加・協力機関

教育機関

名古屋学芸大学（総括）・大学院、名古屋ファッション専門学校、文化ファッション大学院大学、杉野服飾大学

産業団体・企業・関係団体

有限会社 テ・アッシュ・デ ラ メゾン、中伝毛織株式会社、森技術士事務所、毛織物工業組合（尾州）、ナゴヤファッション協会、財団法人一宮地場ファッションデザインセンター

3-3：事業内容

具体的な取り組み内容は、事業参加校で学生を選出し、尾州産地企業見学、テキスタイル開発の検討、専門家によるウール素材の特別講義、素材の開発・加工、オリジナル作品の制作までを一貫して行い、ファッションショーと展示形式で事業成果を発表する。

1） 尾州産地企業見学

平成24年10月19日（金）、尾州産地の中伝毛織株式会社、藤井整絨株式会社、財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターを見学。中伝毛織株式会社では、様々な機械の仕組みや種類の講義を受けた後、紡績、織布、ニット工場を見学。藤井整絨株式会社では、生地の染色や加工、整理の現場を見学。

図2 中伝毛織株式会社見学

図3 藤井整絨株式会社見学

2） 特別講義と加工相談

講演者：森 益一氏（森技術事務所代表）

演題：「ウールの特性と可能性」～優れた羊毛の特徴と高機能、ハイファッション製品創造の可能性～

世界中から高い評価を受けている日本の

ウール素材。その原料となる羊毛や織物の基本的な性質および特性を理解すると同時に、独自の加工を施し新たな付加価値を加えた新ウール素材の可能性をデザインや機能性と関連付けて学ぶ。東京(文化学園)と名古屋（名古屋学芸大学）を会場に実施。

図 4 特別講義（東京）

図 5 加工相談（東京）

3-4：成果発表

愛知県一宮市総合体育館を会場に開催された『10TH JAPAN YARN FAIR & 総合展「THE 尾州」』において、プロジェクト参加校による全作品 20 体をファッションショーおよび作品展示で披露。アパレルおよびテキスタイル企業関係者に対し、本プロジェクトの主旨やウール素材の新たな可能性を提案し、評価を受ける。

① ファッションショー

開催日：平成 25 年 2 月 21 日（木）

図 6 ファッションショーの様子

② 作品展示

期間:平成 25 年 2 月 20 日(水)～22 日(金)

図 7 作品展示の様子

その他にも、プロジェクト参加校において作品展示やファッションショーを開催し、プロジェクトの成果を発表。

3-5：成果の活用・次年度への課題

今年度は、「尾州産地のウール」をテーマとして、立場や設置場所の異なる 5 校が合同で取り組み、ウール素材を活かした作品制作を実施。短期間での共同作業だったため、オリジナル素材の開発まで具体的に到らなかった反省点もあるが、今後は、浜松の綿素材、北陸の合繊織物など他の産地素材にテーマを変えながら、今年度の経験を生かしたモデルカリキュラムの実証を継続して実施したいと考える。

4. 平成 25 年度事業「テキスタイルおよびクリエイティブ分野におけるグローバルな人材育成プロジェクト」

4-1：事業の目的

平成 25 年度プロジェクトは、文化服装学院が総括を行い、テキスタイルとデザインの両方についての知識技術を備えた人材を育成し、日本が誇るテキスタイルを未来に向けて、継承、そして世界に向けて発信、

進化させていこうという想いを込め、「進化と継承～テキスタイルとクリエーションの未来～」というテーマを掲げ実施。

昨年度は、ウールが中心だったため、今年度はその他の素材についての知識を高めるという目的で、綿、シルク、化合繊を選定。当初は、素材からの開発を目指し、カリキュラム作成を検討したが、時間と費用面の都合上今回はやむを得ず、既製の素材を協力機関・企業から提供いただき、作品制作に使用。糸から織ることはできないが、糸・生地がどのような構成になっているか、仕上がったテキスタイルを分析しながら勉強するという手法をとり、素材の知識を深める。

4-2：参加・協力機関

教育機関

文化服装学院（総括）、文化ファッション大学院大学、杉野服飾大学、名古屋学芸大学・大学院、名古屋ファッション専門学校、北海道文化服装専門学校

研究機関・産業団体・企業

文化・ファッションテキスタイル研究所、ケイテー・テクシーノ株式会社、八王子織物工業組合、有限会社福田織物、株式会社LEWS 纏

4-3：事業内容

今年度の具体的な取り組み内容は、事業参加校で学生を選出し、産地企業見学、専門知識研修、素材の加工、オリジナル作品の制作までを一貫して行い、ファッションショーと展示形式で事業成果を発表する。また、専門知識研修の一環として、ファッションデザイナーの堀畑裕之氏による作品制作におけるアドバイスも実施。

1） 遠州産地研修

平成25年9月14日（土）、綿織物（シャツに使用されるような薄手の織物やコーデュロイが中心）の産地で有名な静岡県掛川市（遠州産地）にある有限会社福田織物を見学。独自の技術で開発された生地や生産現場を見学すると同時に、「福田織物の素材開発から見る日本のテキスタイルの現状と今後について」という演題で、同社代表の福田靖氏による専門知識研修も実施。

図8 福田織物工場見学

図9 福田氏による専門知識研修

2） 八王子産地研修

平成25年9月17日（火）、織物の産地としても有名な東京都八王子市（八王子産地）にある文化・ファッションテキスタイル研究所を見学。長年、数々の有名ブランドのファブリックを手掛けてきた現場やオリジナルファブリックを見学すると同時に、「文化・ファッションテキスタイル研究所の革新的テキスタイル」という演題で、同研究所所長の宮本英治氏による専門知識研修、「化学繊維とは（様々な化学繊維の種類や特徴と加工について）」という演題で、ケイテー・テクシーノ株式会社の川崎樹一郎氏による専門知識研修を実施。両者による専門知識研修は、北海道（北海道文化服装専門学校）においても実施。

図 10 文化・ファッションテキスタイル研究所見学

図 11 宮本氏による専門知識研修

図 12 川崎氏による専門知識研修

4-4：成果発表

1)「JFW-IFF」作品展示

平成 26 年 1 月 22 日（水）～24 日（金）の期間、東京ビッグサイトで開催された「JFW-IFF（JFW-International Fashion Fair）」において、プロジェクト参加校による全作品 30 体を展示。会場では、アパレル企業関係者が多く来場するため、主に産業界の関係者にプロジェクトの周知を行い、評価を受ける。

図 13 作品展示の様子

2)「IFFTI[1]」ファッションショー・作品展示

文化学園を会場に開催された IFFTI 年次総会会期中に、同会場 B201 ホールにおいてプロジェクト参加校による全作品 30 体をファッションショーおよび作品展示で披露。世界に向けて本プロジェクト、日本の学生のレベル、そして Made in Japan テキスタイルについて発信すると同時に評価を受ける。

① ファッションショー

開催日：平成 26 年 1 月 30 日（木）

図 14 ファッションショーの様子

② 作品展示

期間：平成 26 年 1 月 28 日（火）～29 日（水）

図 15 作品展示の様子

その他にも、プロジェクト参加校において作品展示やファッションショーを開催し、プロジェクトの成果を発表。

4-5：成果の活用・次年度への課題

今年度の成果としては、複数素材におけるモデルカリキュラムの実証をすることができたと同時に、多数のメディア掲載による全国的な周知を行うことができた。また、

プロジェクトに参加した学生の成果としては、まだまだ不十分ではあるものの、素材についての理解とクリエーション力の強化があげられる。

今後、全国において本プロジェクトを展開するにあたり、これまでは、全国各地の学校・協力団体企業が集まりプロジェクトを実施したが、各校でモデルカリキュラムを実施する際は、近隣の学校や企業・工場でプロジェクトを結成し、運営することで地域活性化につながるのではないかと考える。日本には、全国各地に産地があり、服飾系学校はそれぞれの学校に近い産地と協同でカリキュラムを開発・実施することが可能である。また、そのことで、産地や工場が直面している後継者育成問題の解決の糸口になるのではないかと考える。

5. 平成26年度事業

「地域連携によるファブリックに精通したファッションクリエーター人材育成プロジェクト

5-1：事業の目的

平成26年度プロジェクトは、文化服装学院が総括を行い、継続事業として取り組んでいることを周知させるため、昨年度設定したプロジェクトテーマを引き継ぎ「進化と継承〜テキスタイルとクリエーションの未来〜vol. 2」として実施。

昨年度までのプロジェクトとの大きな違いは、各学校がそれぞれの地域の産業と手を組んで独自のプロジェクトを開発運営する点であり、地域版学び直しプログラムと称し、服飾系学校全9校による6プロジェクトを実施。地元の産業と連携することで、各プロジェクトにより地域性があらわれるよう、各学校が提携先を吟味し、独自のカリキュラム構築を目標とする。

5-2：事業内容と参加・協力機関

今年度の具体的な取り組み内容は、これまで同様、産地研修、専門知識研修をとおし、専門家から知識を吸収し、素材開発・加工、作品制作までを一貫して行い、クリエーション力を向上させるという流れは全プロジェクトにおいてほぼ一環するもので、それに各学校がアレンジを加えた形となる。また、専門知識研修の一環として、ファッションデザイナーの田山淳朗氏による特別講義と作品制作アドバイスは、全プロジェクトで実施する。

1)　八王子・桐生プロジェクト

参加校：文化服装学院（総括）、文化ファッション大学院大学

協力企業・機関：文化・ファッションテキスタイル研究所、桐生織物協同組合、小林当織物株式会社

昨年度に引き続き、東京都八王子市にある様々なテキスタイルを産み出してきた織機や独自性の高いファブリックが多く保管されている文化・ファッションテキスタイル研究所を見学し、そのファブリックの組織や特性を学ぶ。

群馬県桐生市は、絹織物産地として長い歴史を持ち、国内外から高い評価を受けている。また、同じ群馬県に所在する富岡製糸場も絹産業として近代製糸産業を支え、明治時代の日本の経済発展に大きく貢献した。今回は小林当織物株式会社の協力と富岡製糸場での研修を組み合わせることにより、素材の知識や加工、制作技術を身につ

けることに加え、日本の世界に誇る繊維業の歴史を学び、グローバルマインドをもつ人材の育成を目指す。

図 16 文化・ファッションテキスタイル研究所と
小林当織物株式会社の生地を使用し制作した作品

2) 福島プロジェクト

参加校：杉野服飾大学

協力企業・機関：齋栄織物株式会社

福島県伊達郡川俣町は、川俣シルクとして古くから和服地やスカーフなどの生地を生産・輸出し、薄い生地を得意とする絹織物の産地である。また齋栄織物株式会社は、世界一薄くて軽いシルク「フェアリーフェザー」の開発に成功し、海外ブランドからも注目されている。今回は、川俣シルクの特性を学び、シルクという素材特有の高度な造形技術を習得する。

図 17 川俣シルクを使用し制作した作品

3) 名古屋（有松地区）プロジェクト

参加校：名古屋学芸大学・大学院、名古屋ファッション専門学校

協力企業・機関：愛知県絞工業組合、スズサン、有限会社絞染色久野染工場、株式会社竹田嘉兵衛商店

愛知県名古屋市緑区の有松・鳴海地区は、江戸時代以降日本国内における絞り製品の大半を生産しており、国の伝統工芸品にも指定されている。今回は、絞りの技法を学生達に体験させ、地域で発展してきた技法を活かした素材作りに取り組みながら、伝統工芸の技術を学び、後継者育成へつなげていく。

図 18 絞りの技法を施し制作した作品

4) 北海道プロジェクト

参加校：北海道文化服装専門学校

協力企業・機関：株式会社 24K、PEAUX CO. LTD、北海道大学大学院、エゾシカ協会、サンエース株式会社

北海道は、1970 年代まで亜麻繊維を産業としていたが衰退し、現在繊維産地・生産産地と呼べる地域ではない。そのような現状において今後、産業となり得る可能性がある資源としてエゾシカ皮革に注目。知識や皮革縫製技術を習得し、作品制作をとおして、森とエゾシカと人の共生を実証する。

図 19 エゾシカ革を使用し制作した作品

5)　大阪・京都プロジェクト

参加校：マロニエファッションデザイン専門学校

協力企業・機関：株式会社大江、樽井繊維工業株式会社、松尾捺染株式会社、株式会社田中直染料店、京都化学水染蒸工場、株式会社イワサキ

大阪・京都は綿、シルク、ウールなど様々な素材が生産されている。今回は、複数の企業と提携し、価値をより高めるための素材開発と実験を試みることで、幅広い素材についての知識を高める。

図 20 複数素材を使用し制作した作品

6)　福井プロジェクト

参加校：福井文化服装学院

協力企業・機関：ケイテー・テクシーノ株式会社

北陸地方は、合成繊維業が活発であり、そのテキスタイルは、衣料品以外にも自動車産業や医療分野にまで開発供給は広がり、国内外から高い評価を受けている。今回は、合成繊維メーカーと提携し、専門家や技術者から研修を受けた上で、オリジナル素材の開発や加工を行い、作品を制作する。

図 21 合繊繊維を使用し制作した作品

5-3：成果発表

平成 27 年 2 月 9 日（月）ホテルグランドヒル市ケ谷で開催された「服の日[2]」に合わせ、アパレル業界関係者や教育関係者が一堂に集まることを想定して同会場・瑠璃西の間を会場に、各プロジェクトにおいて制作したオリジナル作品 47 体を披露し、評価を受ける。特に地方のファッション学校関係者が多く来場し、全国の教育機関に広く本事業を認知させることができた。

図 22 合同成果発表の様子

その他にも、各プロジェクトにおいて作品展示やファッションショーを開催し、プロジェクトの成果を発表。

5-4：成果の活用・次年度への課題

今年度は、地域の活性化やそれぞれの地域が抱える問題の解決策に繋がるようなプロジェクトを検討実施した。各学校が地元のテキスタイル企業とコラボレートし、学生が改めて地元の強みを学び、技術を身に

付けることで、Made in Japan の活性化、次世代への継承というファッション業界が現在抱える問題の解決に繋がる一歩になったと思える。

今後、より一層このプロジェクトを全国的に普及し、多くの学校で活用していくことを期待すると同時に、次年度においてはグローバルなプログラムの実施を目指し、より高度なカリキュラムの構築を目指す。

6. 平成 27 年度事業

「地域連携によるファブリックに精通したファッションクリエーター人材育成プロジェクト」

6-1：事業の目的

平成 27 年度プロジェクトは、文化服装学院が総括を行い、昨年度も継続して設定したプロジェクトテーマを引き継ぎ「進化と継承～テキスタイルとクリエーションの未来～vol. 3」として実施。

昨年度同様、各学校がそれぞれの地域の産業と手を組んで独自のプロジェクトを開発運営。今年度はエリアを拡大し、北海道から九州までの服飾系学校全 9 校による 7 プロジェクトを実施。

また、文化服装学院と本学は、合同で「グローバル発信型プロジェクト」を立ち上げ、初となる海外で開催される展示会に制作作品を出展し、世界で活躍するファッションクリエーター人材育成のための人材像の明確化を検証する。

6-2：事業内容と参加・協力機関

今年度の具体的な取り組み内容は、昨年度同様の流れを引き継ぎ、各学校がアレンジを加えた形となる。

1） グローバル発信型プロジェクト（静岡・東京）

参加校：文化服装学院（総括）、文化ファッション大学院大学

協力企業・機関：有限会社福田織物、文化・ファッションテキスタイル研究所

福田織物、文化・ファッションテキスタイル研究所と共同で、全国の先陣を切って、グローバル展開を意識したカリキュラムの取り組みを実施。福田織物は「世界一薄い綿織物」を生産する企業として日本の高い技術を生かし、オリジナルにこだわった商品を海外に向けても積極的に販売。今回は、ミラノウニカ [3] に出展する福田織物の生地を使用し、自分の感性だけで自由にデザインを考えるのではなく、ビジネスにつなげるということで、トレンドや市場を意識し、オリジナル作品を制作する事で、より実践的なグローバルクリエーター人材育成の検証を目指す。

図 23 福田織物の生地を使用し制作した作品

2） 名古屋友禅プロジェクト（名古屋）

参加校：名古屋学芸大学、名古屋ファッション専門学校

協力企業・機関：名古屋友禅工芸協同組合、渡邉染工場、友禅工房堀部、叶工房

名古屋友禅は、京都の京友禅と金沢の加賀友禅とともに日本を代表する 3 大友禅と

してこれまで受け継がれてきた。その中でも、型友禅を名古屋学芸大学、手描き友禅を名古屋ファッション専門学校が担当し、現代のモードをデザインに取り入れた作品を制作。高齢化も進んでいる産地にとって、若いクリエーターである学生に体験させることで、地元に根付く産業の理解と地域活性化を図ると同時に、日本に残る技術の伝承と発展につながる人材育成を目指す。

図 24 型友禅を施し制作した作品

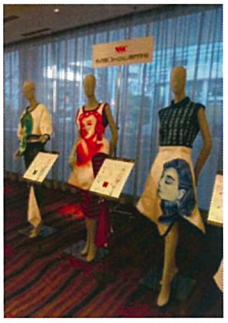

図 25 手描き友禅を施し制作した作品

3) エゾシカプロジェクト（北海道）

参加校：北海道文化服装専門学校

協力企業・機関：株式会社 24K、PEAUX CO. LTD

昨年度からの継続プロジェクト。今後、資源としてエゾシカの肉だけでなく、革を生かしたデザインを考え新たな価値観を提案することで、次世代素材として定着することを目指す。

図 26 エゾシカ革を使用し制作した作品

4) 合繊プロジェクト（能美・小松エリア）

参加校：金沢文化服装学院

協力企業・機関：金田繊維株式会社、株式会社クマモトニット、小松精錬株式会社、株式会社白龍、山本絹織物株式会社

北陸は日本最大の合繊企業集散地であり、世界的にも類のない一大合繊産地である。このような恵まれた環境を活かし、トータルに広い視野で考えられる人材の育成を目指す。

図 27 合成繊維を使用し制作した作品

5) バンブープロジェクト（福井）

参加校：福井文化服装学院

協力企業・機関：株式会社バンブーグローバル、株式会社 infoBANK

天然の竹を有効活用して開発されたバンブー繊維「バングロ」を使用したプロジェクト。バングロ素材は開発途上の大きな可能性を持った素材として注目されており、その特徴を学び理解した上でデザインを提案することで、新たな可能性を見出し、バングロを福井から世界に広めたいという地場産業の発展にもつながる事を目指す。

図 28 バングロ素材を使用し制作した作品

6） ニットプロジェクト（大阪・泉州）

参加校：マロニエファッションデザイン専門学校

協力企業・機関：東亜ニット株式会社

関西、和歌山はニット産業が盛んで、丸編ニット生地の生産にいては、全国１位であったが、近年、海外製品に押され、メーカーの世界的な淘汰が起きている。今回は、このような現状を克服すべく産地と協力し、グローバルなニットデザイナー育成を目指す。

図 29 ニットで制作した作品

7） 博多織プロジェクト（福岡）

参加校：香蘭ファッションデザイン専門学校

協力企業・機関：株式会社サヌイ織物、有限会社モードサロン美輪、博多織デベロッップメントカレッジ

博多織は、鎌倉時代、中国より織の技術を研究し持ち帰ったところからはじまり、その後約 770 年間、博多の地において変化を遂げてきた。今回は、帯や着物に使用される手織の織物と、ドレス用に開発された機械織の両方を取り入れ、伝統を踏まえた上での革新を求め、素材の特性を活かした作品を制作する事でクリエーション能力を養う。

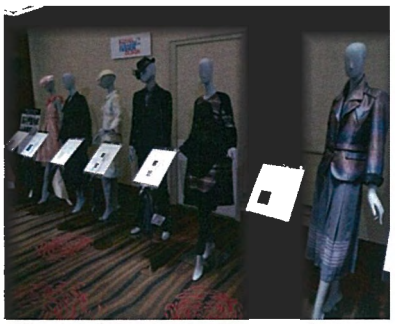

図 30 博多織を使用し制作した作品

6-3：成果発表

1） 「服の日」作品展示

昨年同様、平成 28 年 2 月 9 日（火）京王プラザホテルで開催された「服の日」に合わせ、同会場・グレースルームを会場に各プロジェクトにおいて制作したオリジナル作品 49 体を披露し、評価を受ける。今年度は、服の日の記念行事等が行われたフロアーと会場が異なったため、昨年度と比較すると来場者が少なかった。会場の選定、展示会の広報、集客のための導線づくりなどの課題が残る結果となったが、本プロジェクトの全国展開強化においては効果があったと思われる。

図 31 合同成果発表の様子

2） 「ミラノウニカ」作品出展

平成 28 年 2 月 9 日（火）～11 日（木）、イタリアミラノ（フィエラ・ミラノ・シティー）にて開催されたミラノウニカの日本パビリオン「ジャパン・オブザーバトリー」において、グローバル発信型プロジェクト

で制作した 8 作品を福田織物のブース内に展示。会期中、世界中の多くのテキスタイル関係者やデザイナーが訪れ、実際に生地が製品になった際のイメージがしやすいという言葉をいただくことができた。

図 32　ミラノウニカ会場

図 33 福田織物のブース

その他にも、各プロジェクトにおいて作品展示やファッションショーを開催し、プロジェクトの成果を発表。

6-4：成果の活用・次年度への課題

今年度は、新たなステップとしてグローバル人材育成のためのプロジェクトも実施した事により、新たなカリキュラムの土台を構築する事ができたといえる。また、学生の成果としても、産地や素材についての理解とプロのデザイナーの指導によるクリエーション力の強化、そしてグローバルビジネスを意識したものづくりの視点の強化が得られた。

今後、さらに、グローバルな展開も含めたカリキュラムを各産地と学校が提携して展開していく事で、実際にグローバルに活躍できる人材育成を目指す。

7. 今後の展開

Made in Japan の素晴らしい素材は、グローバルなブランドと戦っても、十分強力な武器となっている。その価値を共有し業界全体で盛り上げていくことが重要である。

平成 23 年度よりスタートしてから 5 年目を迎え、年々、服飾系大学や専門学校の参加が増えている。この事は、本事業が全国へ確実に拡大し、そして浸透しつつあるという成果だといえる。本プロジェクトに参加した学生も 150 名以上となり、ファッション業界やテキスタイル産業に就いている。その経験者が少しでも国内のテキスタイルに目を向け、J クオリティーをさらに推奨するように変わっていく事を願うと同時に、このように継続事業として全国的に本事業を展開することが、日本のファッション、テキスタイル産業界の発展やグローバルなファッションクリエーターとして有能な人材の輩出につながることを期待する。

［注釈］

[1] IFFTI（国際ファッション工科大学連盟）は、世界を代表するファッションスクール 44 校が加盟しており、平成 25 年度年次総会には、世界中から 120 名の学長や教授が来校。

[2] 日本ファッション教育振興協会では、例年 2 月 9 日を「服の日」と定め、記念行事を開催。また同時に、繊維ファッション産学協議会では、「産学交流会議」を企画し開催している。

[3] ミラノウニカは、2005 年にイタリアと欧州のテキスタイル関連企業限定参加にてスタートした展示会。2014 年 9 月には初めて日本の企業が特別ブースを得て出展。パリで開催されるプルミエールヴィジョン展と並び、世界中のテキスタイルバイヤーが集まる欧州の 2 大素材展示会のひとつ。